



学校だより

令和8年8月31日

No. 6 9月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

肯定的な評価

校長 小澤 孝之

今年の夏休みは、7月28日の熊本地震や8月13日から14日にかけて千葉県を中心とした豪雨など、自然災害がありました。熊本地震では大型ショッピングモールの事故があり、また、千葉県の豪雨では車への浸水による事故がありました。それらを通して災害時の避難方法について改めて考えなくてはならないことを思い知りました。今回の災害に際して、被害にあわれた方にお悔やみを申し上げるとともに、そのご家族や関係の皆様にお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を願ってやみません。

さて、猛暑日が少なかったとはいえ、8月に入って暑い日が続きましたが、甲子園でも高校球児が熱戦を繰り広げていました。今年度は神奈川県代表 横浜高校が素晴らしい投手を擁して優勝候補ということもあり、初戦の沖縄尚学戦は前売りチケットが早い段階で完売になるなど、大きな話題となりました。私も久しぶりに初回からゲームセットの瞬間まで見て興奮する瞬間をたくさん味わいました。その流れで今年度は他の試合も含めて多くの試合をテレビ中継で見ました。その中で、試合の解説の方が一つ一つのプレーにより評価を話していることに気づきました。例えば、得点場面でヒット等を打った時にはもちろんですが、チャンスで打てなかったときにも、「いいスイングでしたね。」「守備がしっかりとっていて、練習の成果が表れていましたね。」といった肯定的な言葉で話していました。とにかく、結果に目が行きがちで、チャンスを生かせなかった場面では、私も残念な思いが強くありましたが、解説の方の肯定的なコメントを聞いて、そこに至るまでの選手の努力や周囲の人々の思いに考えを巡らせることができました。あの甲子園で熱戦を繰り広げている彼らは、各都道府県予選を勝ち抜いた代表で、努力なしにはその場に立つことはできなかったはずです。試合の様子を見ている私にはそのことを簡単に想像できませんが、解説している方は、ご自身が同じ体験をしている、あるいは取材を通して知っているわけです。だからこそ、肯定的な話ができるのです。

私たちも子どもたちの日々の様子を見たり、話を聞いたりすることを通してより深く知り、今の活動を肯定的にとらえ、伝えていくことが大切です。夏休みを通して様々なことを経験し、成長した子どもたちとこれからを一緒に過ごすのが楽しみです。

4月よりお休みをいただいていた石川 純弥教諭が8月より復帰いたしました。お伝えしていた通り、5年4組担任となります。ご理解、ご協力をお願いいたします。また、7月まで5年4組担任でした高階 雅人教諭は、教務主任と5、6年の授業を中心に受け持ちます。